

26011-1439

令和8年9月30日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和8年度病虫害発生予察特殊報第2号について

令和8年度病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

令和8年度病虫害発生予察特殊報第2号

1 病虫害名：グアバネコブセンチュウ

Meloidogyne enterolobii Yang and Eisenback, 1983

2 作物名：ピーマン

3 発生確認の経過

令和8年（2026年）7月、県西部のピーマン栽培ほ場の土壌からグアバネコブセンチュウの疑義虫が確認されたと株式会社農研植物病院より連絡があった。

同ほ場より植物体及び土壌を採集し、農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、国内未発生のグアバネコブセンチュウであることが確認された。

4 調査状況

本虫が確認されたほ場の周辺ほ場で、8月から、門司植物防疫所と県による発生確認調査を実施した。その結果、発生が認められたのは当該ほ場1か所で、周辺ほ場では確認されなかった。

5 国内外の発生状況

日本国内での発生は確認されていない。

海外では、中国、台湾、ベトナム等のアジア、オーストラリア、スイス、ポルトガル、アフリカの一部、アメリカ及び中南米の一部で発生が確認されている。

6 本種の特徴

（1）寄主植物

海外ではキュウリ、さつまいも、すいか、だいず、トマト、なす、トウガラシ、にんじん、ばんじろう等、多くの作物で根部への寄生や被害が報告されている。

（2）形態

第2期幼虫（図1）は細長く糸状で、体長は250～700 μm、体幅は12～18 μmである。雌成虫（図2）は洋梨型の球状、体色は白色、体長は400～1,300 μm、体幅は300～700 μmで、移動しない。雄成虫は糸状で、体長は700～2,000 μm、体幅は25～45 μmである。

(3) 寄生部位及び症状

本種は内部寄生性の線虫である。卵は根の表面近くにゼリー状の袋に包まれて産下される。土壤中でふ化した第2期幼虫が土壤中を移動し、寄主植物の根に寄生・定着する。第2期幼虫が定着して加害することにより、根の細胞が多核体細胞に分化すると同時に周辺の組織にこぶ（図3）が形成され、植物は養水分の吸収を阻害される。

本種による代表的な症状は、成長阻害、萎れ及び葉の黄化とされる。

7 防除対策

- (1) まん延防止のため、使用した農機具等を移動する前に必ず土を落とし洗浄を実施する。また、洗浄水は、他のほ場へ流入することのないよう留意する。
- (2) 栽培終了後の植物残さは、圃場外への搬出は行わない。
- (3) 発生ほ場では、殺線虫剤による土壌消毒を実施する。
- (4) 発生ほ場では、寄主植物の栽培を避ける。

8 人への影響

本線虫は人畜には無害であり、万が一、本線虫が付着した農作物を食しても人の健康を害することはない。



図1 第2期幼虫



図2 雌成虫



図3 根に形成された根こぶ

※図1～図3：植物防疫所ホームページ（植物防疫所病虫害情報第142号(2026年6月18日)）より

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(病虫害防除・肥料検査センター) 後藤、杉村

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP : https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

